

地域公共交通の充実へ

これまででの経緯を再確認

川崎市議会議員 矢沢たかお

11月27日から12月20日の会期で市議会第5

回定例会が行われました。一般質問では「地

域公共交通」と「野球場の不正利用問題」を

取り上げました。今回は「地域公共交通」に

ついてご報告致します。

運行便数約15%減

和3年度には運行便数が約15%減少しており、今

「深夜バスをまた走ら 後はこれまで以上に厳し
せて欲しい」。日々の活 い状況が見込まれていま
動の中で、お聞きする市 す。現在本市は、重複バ
ス路線の改善や利用者 に
の運行状況は、平成30 応じた路線の再編など、
年度のピーク時と比べ令 「バス路線の一層の効率

化」を進める方向性を示
しています。

全国的にはバス利用者
の減少や運転手不足を背
景に、路線バスの減便や
路線の廃止が相次いでい
ます。本市も同様、運転
手の実働時間の改善を図
る、いわゆる「2024
年問題」を目前に控える
中、地域の足の確保が課
題となっています。

効率化では終われない

厳しい経営環境は理解
する一方、これまでの経
緯を忘れてはいけません
。本市は、平成30年に
「川崎市総合都市交通計
画」を策定。長年に亘り

推進した川崎縦貫鉄道の
廃止を公表しました。代
わりに「身近な地域の交
通を支える公共交通ネッ
トワークの充実」に重点
を置きました。当然です
が、新駅を設置する予定
だった地域には相応の交
通課題があり、市は最大
限の取り組みとして路線
バスネットワークの充実
を掲げてきたのです。

私は質問の中で、経緯
を考えた際、「バス路線
の一層の効率化」で今後
の施策を締めくくるべき
ではないと主張し、課題
解決に向け更なる取り組
みを求めました。

まちづくり局長は「本
市においても、バス運転
手不足が顕在化してお
り、早朝深夜の減便や、
日中の運行本数が維持で
きなくなる等、地域交通
を取り巻く環境が大きく
変わってきている。この
ような環境の変化に対応
し、本市の強みである
『都市の利便性』の維
持、向上に向けて、新た
な取り組みを展開する必
要がある」と答弁しまし
た。今後も動向を注視
し、課題解決に向け取り
組んでまいります。



新議場での一般質問の様子



矢沢たかお

●川崎市宮前区初山生まれ(38歳)
菅生小、菅生中卒 / 法政大学
第二高等学校卒 / 法政大学情
報科学部卒 / 商社系IT企業
2023年4月3期目当選

宮前区初山1-20-12
Tel 044-976-2727

矢沢たかお 検索